

第16回 建築人賞 発表

主催：公益社団法人大阪府建築士会

審査総評

候補となった作品から、建築人賞、建築人賞新人賞、建築人賞奨励賞、建築人賞佳作の各賞を選定した。新人賞は、設計者の年齢が40歳以下の作品を対象として昨年度に新設されたもので、今回も実施することとなった。

この賞の審査を担当するのは、今回で4回目となる。審査のプロセスは、昨年までと同様である。まずは『建築人』2023年1月号から12月号までのGallery欄に掲載された全31作品について、誌面を見て1次審査を行った。この段階で一般部門9作品、住宅部門6作品をセレクトした。

選ばれた各作品の設計者から、追加で図面、写真、設計コンセプトなどをまとめた説明資料を提出してもらい、それをもとに2次審査を行った。一般部門6作品と住宅部門4作品に絞り込み、各部門の授賞対象とした。なお、集合住宅は一般部門に含めている。

選考に残った作品のうち、一般部門については現地を訪れて審査の精度を高めた。住宅部門については、コロナ禍以降は断念していた現地審査の再開を検討したが、まだ時期尚早との判断で、今回も書類のみによる選考となった。

評価の基準もこれまでと基本的に変わらない。建築をさまざまな観点から総合的に評価するが、総花的にそこそこ良い点を稼いだ作品よりも、1箇所でも際立った点を持つ作品を上位に置くようにした。

加えて、建物が建っている敷地の文脈をどのように把握し、それを建築の設計にどう反映させたのかを見定め、評価の

重要なポイントとした。さらに言えば、建築は歴史的な文脈にも乗ったものである。過去をどのように理解し、建築の設計を通じてどのように未来へとつなげようとしたのか。建築史の上で果たしうる役割について、時間的な想像力も働かせて、評価しようと試みた。

まずは一般部門について、審査のポイントを振り返る。2次審査を通過した作品について、場所的な文脈から分類してみると、建物が密集するエリアにあるものが4件で、その内、「同志社大学新創館」と「インダ本社」が京都市内の建築であった。ともに周囲の環境を意識した外観を探りながらも、前者は家型の連棟、後者は低く水平に重なる線のファサードと、異なる対応の仕方を探るが、いずれも興味深いものであった。残りの「堂島実践倫理会館」と「かぜのこ 放課後デイサービス」は、大阪市内にある。一方は大阪駅に近い都心部で、もう一方は町工場が混じる住宅地だが、どちらも都市に対して閉じつつも開こうとする両面性を備えている。

他の作品のうち「あいら齋場悠久の杜」は、里山が迫る都市のエッジに位置する。敷地の広さに余裕がない中で、周囲の自然をうまく利用する。齋場としての機能性を究めながら、慰霊のための象徴空間もしっかりと実現している。

もう1件の「千里グリーンヒルズ竹見台101号棟」は、郊外の住宅団地に建つ。ニュータウンのランドマークとして親しまれてきた高層スターハウスの建て替えで、既存の形状を踏襲しながらも、明快な軸線を通して敷地に新たな文脈を生み

出している。加えて、戦後の集合住宅の一時代を飾ったスターハウスという形式に対して、批評を込めたりデザインを行なっており、集合住宅の歴史をつなぐ作品になるものと考えられた。

この点を高く評価して、「千里グリーンヒルズ竹見台101号棟」に建築人賞を与えるものとした。そして、京都という街に合う、これまでにない都市建築の型を示した「インダ本社」と、都市に埋め込まれる小規模施設の型を示した「かぜのこ 放課後デイサービス」を奨励賞とした。また「堂島実践倫理会館」については、材料や工法を吟味して密度の高い都市建築を達成している点を高く評価し、新人賞の対象となっていることから、これを授与した。

住宅部門については、現地審査を行っていないため、敷地周辺との関係が把握しにくかったが、応募資料からできる限り読み取ろうと努力した。この観点から、小さな住宅であることが周囲の高級住宅街に対する批判的な応答になっている「小箱家」がまず目につき、これを建築人賞に選ぶこととした。次に、オーソドックスな和風住宅の良さを引き継ぎながらも、そこに新しい魅力を加えた「蓮真居」に奨励賞を与えた。また、複数の多様な庭を設けてそれぞれに室内や都市との関係をつくり上げた「芦屋の家」に対して、新人賞の対象となることから、これを授与した。

なお、今回の審査において、応募してくれた設計者と、建物オーナーや管理者の皆さんに、多大なご協力をいただいた。ありがとうございました。



建築人賞新人賞記念盾

ガラスアーティスト 佐久間 靖 作



建築人賞記念盾



審査委員長 磯 達雄

1963年 埼玉県生まれ
1988年 名古屋大学工学部建築学科卒業
日経BP社入社『日経アーキテクチャ』編集部勤務(～1999年)
2001年～ 桑沢デザイン研究所非常勤講師
2002年～ フリックススタジオ共同主宰(～2020)
2008年～ 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科非常勤講師
2020年～ Office Bunga共同主宰
2023年～ 早稲田大学芸術学校非常勤講師

建築人賞 千里グリーンヒルズ竹見台 101 号棟

設計：遠藤剛生建築設計事務所

施工：青木あすなる建設

建築位置／大阪府吹田市

敷地面積／11,913.30㎡

竣工年月／2020年9月

建築面積／1,891.64㎡

用途／共同住宅

延床面積／15,976.80㎡

構造・規模／RC造

写真／松村芳治

地上14階

建築人 2023年5月号掲載



【選評】

高層スターハウスの建て替えである。3方向に翼が延びるスターハウスの形状を受け継ぎながらも、一つの翼をツインコリドー形式へと変えた。向かい合わせの2棟からなる吹き抜けの底には、共通エントランスから続く柱廊が通っており、住民はこの強い垂直性を帯びた空間を日常的に味わう。翼間の角度は120°／120°／120°だったものが、135°／90°／135°へと変えられた。これがスターハウスの欠点である住戸同士の視線の交錯も解消している。

建築人賞 小箱家

設計：T-Square Design Associates

施工：ICHI-市川工務店

建築位置／兵庫県芦屋市

敷地面積／177.92㎡

竣工年月／2023年6月

建築面積／41.40㎡

用途／専用住宅

延床面積／81.14㎡

構造・規模／木造

写真／楠瀬友将

地上2階

建築人 2023年12月号掲載



【選評】

作品名の通り、箱形の建物。外観はガルバリウム波板とガラス窓の組み合わせにより、全体が平滑な面で覆われている。階段室のみがアクセントとして飛び出し、その床が延びて玄関の庇に変わる。内部は1・2階とも間仕切りをなくした一室空間で、こちらでも使用する仕上げ材料を限定し、巧みなディテール処理で、シンプルさを極める。この家は芦屋の住宅街にあって、周囲の豪邸群と比べれば格段に小さい。だからこそ逆に、凝縮された存在感を放っている。

●目的

公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、2024年4月には第718号を数えました。本会の会員にとって重要な情報提供を行うとともに、建築作品発表の機会を設け、建築技術の普及や会員の相互研鑽に寄与することを目指しています。

「建築人賞」は「建築人」のGALLERY頁に掲載された全作品の中から特に機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰することで、建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的とし、「建築人」のプレゼンスをより高めていくことを意図して創設された賞です。

●候補作品と審査経過

会誌「建築人」2023年1月から12月のGalleryに掲載された建築作品31点の中から、磯審査委員長に選定頂きました。

昨年創設した40歳以下の若い建築士の方を対象とする『新人賞』候補は、5作品となりました。若い建築士の方々に興味を持って頂く目的で創設した新人賞に、一定の効果があつたことを建築情報委員会として喜んでいきます。

今回も一般部門の作品は、集合住宅から教育系施設、斎場、オフィスまで多様な建物用途があり、現地審査は関西圏に留まらず、鹿児島まで赴いての審査となりました。住宅部門は個人の住まいであり、1件でも現地審査が出来ないと、審査の公平性において全件書類審査となりました。今後は、住宅部門の最終審査に関して、現地審査を行わない前提で審査資料の提出を検討していきたいと考えています。

『建築人賞』は設計者だけでなく、建築主や施工者も表彰の対象となります。建築人賞を通じて、多くの方々に建築やまちに魅力と価値を感じて頂き、建築文化の発展と人々の快適な暮らし創りに繋がることを祈念しています。 建築情報委員会委員長 松下典央

建築人賞新人賞 堂島実践倫理会館

設計／竹中工務店

施工／竹中工務店

建築位置／大阪市北区

竣工年月／2022年12月

用途／研修所

構造・規模／RC造

地上4階

敷地面積／331.23㎡

建築面積／262.02㎡

延床面積／750.75㎡

写真／仲佐 猛

建築人 2023年3月号掲載

【選評】

大阪の都心部に位置し、すぐ近くを高速道路が走る。周囲の喧騒から守るため外側には大きな壁が現れたが、斜めに傾いた特注のせり器質タイルを張ることで、威圧感を抑えた。加えてアルミキャストの外装がL字形に切断面を見せ、内外のつながりも感じさせる。内部はアルミ、しっくい、杉板型枠コンクリート打ち放しなどの仕上げが適材適所で用いられ、自然光の採り入れ方も効いている。材料や工法の吟味によって生まれた、小規模ながら優れた都市建築である。



建築人賞新人賞 芦屋の家

設計／大庭徹建築計画

施工／ヴィーコ

建築位置／兵庫県芦屋市

竣工年月／2022年3月

用途／戸建て住宅

構造・規模／木造

地上2階

敷地面積／282.59㎡

建築面積／112.64㎡

延床面積／158.08㎡

写真／笹倉洋平

建築人 2023年9月号掲載

【選評】

夫婦と子ども1人と2匹の犬のための戸建て住宅。限られたボリュームの中に、音楽室、納戸、DEN、屋上テラスなど、多様な場をコンパクトに収めている。吹き抜けのリビングルームには壁一面に本棚がつけられ、家族の文化的な歴史を見返す鏡となる。5箇所に配された庭は、開口部を通してそれぞれに異なる外部の自然を、室内側へ浸透させる。道路側に対しては閉じているが、前庭を設けて顔を見せる。玄関へと回り込むアプローチも魅力的だ。



実施要項及び経過

●対象作品 会報誌建築人 2023年1月号～2023年12月号「GALLERY」掲載作品31点

●審査 第一次審査(31点から15点選出) 第二次審査(10点選出)

●表彰式 2024年度定時総会・式典 席上 日時／2024年5月22日(水) 会場／KKRホテル大阪3階

●入賞作品

建築人賞

千里グリーンヒルズ竹見台101号棟 2023年5月号掲載

小箱家 2023年12月号掲載

建築人賞新人賞

堂島実践倫理会館 2023年3月号掲載

芦屋の家 2023年9月号掲載

建築人賞奨励賞

かぜのこ(放課後デイサービス) 2023年7月号掲載

インダ本社 2023年11月号掲載

蓮真居 2023年5月号掲載

建築人賞佳作

あいら齋場悠久の杜 2023年2月号掲載

同志社大学新創館 2023年10月号掲載

太子町の家 2023年2月号掲載

建築人賞 設計者に賞状および記念盾を授与、建築主・施工者に賞状を授与

建築人賞新人賞 設計者に賞状および記念盾を授与、建築主・施工者に賞状を授与

建築人賞奨励賞 建築主・設計者・施工者に賞状を授与 / 建築人賞佳作 建築主・設計者・施工者に賞状を授与

建築人賞佳作 あいら斎場悠久の杜



設計/環境技術研究所・Ks ARCHITECTS
施工/キョクヨウ・岩沢組JV

建築位置/鹿児島県始良市 敷地面積/5,826.94㎡
竣工年月/2017年3月 建築面積/2,156.34㎡
用途/火葬場 延床面積/1,972.38㎡
構造・規模/RC造 地上2階 写真/太田拓実

建築人賞佳作 同志社大学 新創館



設計/日建設計
施工/鴻池組

建築位置/京都市上京区 敷地面積/14,365.20㎡
竣工年月/2023年5月 建築面積/1,163.14㎡
用途/大学 延床面積/1,997.78㎡
構造・規模/S造 地上2階 写真/伊藤 彰(アイフォト)

建築人賞佳作 太子町の家



設計/大西憲司設計工房
施工/笹原建設

建築位置/兵庫県揖保郡 敷地面積/243.27㎡
竣工年月/2022年12月 建築面積/102.64㎡
用途/専用住宅 延床面積/91.39㎡
構造・規模/木造 平家建 写真/福澤昭嘉

建築人賞奨励賞 かぜのこ (放課後デイサービス)

設計/井上久実設計室
施工/ヒロタ建設

建築位置/大阪市東淀川区
竣工年月/2023年5月
用途/放課後デイサービス
構造・規模/木造 2階建
敷地面積/157.77㎡
建築面積/93.39㎡
延床面積/122.31㎡
写真/富田英次



【選評】支援を要する子どもたちのための施設である。周辺は町工場と集合住宅が混じり合う。敷地の広さは限られ、間口は狭い。そこに中庭を挟んだ分棟形式で、3棟の家型が平入りの向きで並ぶ。この形状は子どもにとって「もうひとつの家」のような居心地の良さを感じさせる。また、前面道路に向けて長く伸びた屋根が、雨宿りができる軒下空間をもたらす。都市とつながりを生み、閉鎖的な感じを抱かせない。街に埋め込まれた小さな施設の良さが達成されている。

建築人賞奨励賞 イシダ本社



設計/竹中工務店 施工/竹中工務店

建築位置/京都市左京区 構造・規模/S造 地上3階 延床面積/3,994.88㎡
竣工年月/2023年4月 敷地面積/2,810.95㎡ 写真/古川泰造
用途/事務所 建築面積/1,883.68㎡

【選評】敷地は京都市街ではなかなか見られない幅広い間口を持つ。これを最大限に活かして、ファサードは庇、ルーバー、手すりなど、水平線の重なりで構成される。平面と断面はL字形のモチーフの繰り返しで、閉じつつ開いた空間が随所に。旧会長の邸宅から受け継いだ庭園への視界を、ロビー、オフィス、会議室などでそれぞれ絶妙に取り込む。低く広がり、庭と一体化した建物は、歴史的都市のオフィスビルとして新しい型を示すものと言える。

建築人賞奨励賞 蓮真居

設計/木原千利設計工房
施工/藤木工務店 倉敷支店

建築位置/岡山県岡山市
竣工年月/2020年1月
用途/専用住宅
構造・規模/木造
地上2階
敷地面積/9,770.10㎡
建築面積/263.87㎡
延床面積/328.04㎡
写真/松村芳治



【選評】伝統的な材料や工法を採用した本格的な和風の住宅だが、そこにフローリング床のリビングルームや、軽快な鋼製階段などを組み合わせて、現代の住生活で求められる機能性と快適さを取り込んでいる。水平に広がる大きなガラスの開口は、庭の景観を室内の奥深くまで取り込む効果がある。また、如庵の茶室にしか現れないような斜めの壁が、空間を仕切ると同時につながって、プランに意外性をもたらす。和の正統の価値を再認識させてくれる作品である。